

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274		
法人名	社会福祉法人常新会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	広島県福山市曙町3丁目17-5		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	H31年 3月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が元気で過ごせるように、食事と運動に力を入れています。食事では、入居者の栄養状態を一人一人評価し、高齢者にとって重要なタンパク質をしっかりと摂れるように卵料理を増やしたりしています。また、摂食嚥下にも力を入れており、どこに問題があるかアセスメントを行い、なるべく自力で楽しく食べられるように支援しています。運動では、天気の良い日はなるべく散歩へ出かけたり、近所の店は歩いて買い物へ行ったりしています。冬など散歩に中々行けない時は、居間にエアロバイクを用意しており、自由に使えるようにしています。地域の方に向けては、地域清掃や地域の祭りに参加するなど交流を深めています。特に、100歳体操のメンバーの方とは、避難訓練へ参加してもらったり、カレー作りや餅つきを一緒にするなど交流の幅が広がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには、病院・大型スーパー・レストラン・商店などが立ち並び、生活の場としての利便性は良い。3階建ての事業所の一角には、保育所もある。地元住民が参加する100歳体操を、1階フロアで行うと共に、定期的な料理教室・映画会を開催したり、公民館活動や地元の祭りに参加するなど地域との交流をしている。利用者職員は、食事の買い出しから調理・片付けに至るまで、洗濯物干しからたたむまでと、利用者の意向を確認しながら、日常生活を協力し合っている。定期的に大浴場での入浴が出来たり、散歩に出かける・買い物に行く・外食に出かけるなど外出の機会も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームやすらぎ	事業所の基本理念を事務所と玄関の目に付くところに貼り、職員みんなが意識できるようにしている。入居者の声を聴き、入居者主体で生活できるように関わっている。地域清掃や100歳体操サークル、地域行事などで地域との交流を深めている。	基本理念「*利用者の満足を第一とする。*地域社会への奉仕と貢献。」を事務所と玄関に掲示して、職員間で共有すると共に、ユニットごとの目標・個人目標を作成し定期的な振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや文化祭、お祭りなどの地域行事や100歳体操のメンバーを中心に避難訓練や餅つきなどで交流している。100歳体操は週1回行っており、メンバーの方から野菜の差し入れなどもある。	町内会に加入し、清掃活動・地域の盆踊りに出店・公民館での文化祭に作品の展示などを行っている。週に1度、事業所で開催される100歳体操を通じて、料理教室・映画会と地域住民との交流に取り組んでいる。また中高生の体験学習や奉仕活動の場として、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誠之中学校のチャレンジウィークでは、生徒さんに認知症の方とのコミュニケーションの取り方を伝えたりしている。100歳体操に参加された方には、お茶の時間に、認知症についての相談やグループホームでの生活の様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の取組みや地域の方に向けて取組みたいことなど話し合い意見を頂いている。その中で、100歳体操のメンバーを中心に料理作りや避難訓練など地域の方に開けた施設を目指し取り組んでいる。	家族代表・包括職員・民生委員・町内会長・公民館職員・地域ボランティアなどの参加を得て、年6回定期的に開催をしている。町内会長から地域災害の情報を得たり、100歳体操の活動への希望を聴く・公民館や祭りへの協力体制の検討など活発な意見交換がされている。	事業所の様々な取り組みを、市職員に理解してもらい連携を図るためにも、会議へ参加の呼びかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当窓口を決め対応している。新たに得た情報(メール・FAX)は、現場職員にも情報を円滑に伝えられるようにしている。	市との連携は担当者を決めて行っている。開催される研修には職員が交代で参加し、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、フィジカルロック・薬のロックはもちろんのこと、言葉でのロック「動いてはだめ、じっとして」という行動を抑制するような言葉は使わないように職員全員で取り組んでいる。	月1回身体拘束委員会を開催し、情報はユニットごとのミーティングで共有している。利用者の行動をむやみに制限せず、理由付けをして利用者に説明している。無断外出の利用者には付き添い、思いの把握に努めている。医師と相談の上、介護方法の工夫で薬の減量にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修会で学ぶ機会を作っている。また、ニュースで介護職員の虐待の事が出るとミーティングで話合っている。入居者にアザなどが見つかった場合は、原因や今後の対応を家族にしっかり説明し、安心して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人の方には権利擁護について講義を行っており、その他の職員も事業所共通のスライドで勉強する機会を作っている。入居者が必要としている福祉サービスがあれば活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、事前面接で、契約に関する説明をしっかりと行っている。家族が不安や疑問がないように気をつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、家族の声を頂くようにしている。また、面会時には、家族の思いを聞くようにしている。家族から出された意見はミーティングなどで取り上げ話し合いを行い、問題解決に取り組んでいる。	家族とは、面会時や家族会などを通じて意見を言いやすい関係性を築くようにしている。出された意見は、家族ノートに記入し共有している。利用者の要望により、個人的に朝食をパンとコーヒーにしている方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、職員の意見や提案が出やすいように、心掛けている。理事長や施設長などが職員一人一人と面談し、改善してもらいたい事など話を聴いている。	日頃から職員の意見や提案には、耳を傾けている。ユニットホールの飾り付け・棚の整理方法・買い物など日々の業務への提案などがある。また利用者の状況に応じて勤務体制を変更するなど、話し合っ柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司による社会性や専門性について個人面談を行っており、努力や実績においてしっかり評価して頂いており、給与に反映してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、3週間の研修後、実践能力開発プログラムにそって指導をし、ステップごとで評価している。その際、指導担当者で面談し、アドバイスを受けている。実践者研修や学会、社外・社内研修にも参加しており、個人の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や管理者研修などで同業者の方と交流する機会を作っている。他事業者の取り組みを参考にさせてもらっていることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、家族から本人の困りそうな事、不安な事、要望を聞き出している。入居すぐはなるべく本人に寄り添い不安の訴えがあれば傾聴している。話した内容は必ず記録し、職員同士で情報を共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接では、家での様子や困っている事、不安に思っている事をしっかり聞くようにしている。入居後、面会時には必ず、GHでの生活の様子を伝えている。また、家族からの要望を聞き、家族ノートに記録し、職員全員で情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり本人の行動をアセスメントし、できない事、困っている事を把握し支援している。当GHで対応できない場合もあり、その場合は理由を説明し、ケアマネとも協力して他サービスもあることなど紹介し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家事活動など本人の能力を見極めた上で、本人がやりやすい方法で提供し、自尊心を保てるようにしている。また、食事作りでは、入居者さんに味付けや調理の仕方を教えてもらいながら、共に支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から入居者前の生活の様子を聞いたりしてケアに活かすようにしている。面会時には必ず、日頃の様子を伝え、より良い関係を築くようにしている。かかりつけ医以外の病院受診があれば、家族が連れて行って下さるなどの協力体制も出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で過ごしていた時によく行ったお店や美容室など、いつでも行けるようにしている。また知人、友人、親戚などの面会も自由に行えるようにして、関係の継続が出来るように努めている。	以前住んでいた地域に行ったり、通所サービスの友人に会いに行く・馴染みの美容院や神社に行くなど、利用者から要望があれば実行できるよう支援をしている。家族とともに、毎年日帰り旅行をしている利用者もいる。回想法を利用して利用者の思いを引き出し、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係性をしっかり観察し把握することで、食事の席や居間での過ごす場所などを考えている。また、入居者が孤立しないように仲の良い人と一緒に家事活動をしてもらうなど馴染みの関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られても必ず訪問し、本人の様子を聞き、対応についてのアドバイスなどを行っている。、家族に対しても電話などで連絡を取り、相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しができる入居者は、日々の会話から本人の思いや希望を把握するように努めている。自ら思いを伝えられない入居者には、生活歴や家族の情報からケアを行い、反応の良いものを探そう努めている。	昼食後のくつろいだ時間を利用した会話や入居時のアセスメント・思い出の写真・家族からの情報などから、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な利用者には表情の変化などから、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で、ある程度の生活歴や馴染みの暮らし方などは本人や家族から聞くようにしている。入居後も家族の面会時には、家での生活の様子や馴染みの物などの話を聞いたり、回想をすることで、家での習慣を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ライフチャートに入居者の一日を時系列で記録している。また、普段とは違う言動や新たな力がみられた時は、その時の様子や会話の内容、ライフメイトが感じた事を記録している。申し送り時に他職員にも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のチームミーティング時に、職員みんなでカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを聴いている。担当職員はアセスメントとモニタリングを行い、介護計画を作成している。	利用者・家族の意見や要望を基に、作成している。月2回行われるカンファレンスで、気づきを話し合い検討をしている。3ヶ月に1度、見直しをしているが状態変化があれば、柔軟な対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに、日々の様子をライフチャートへ記録している。状況だけではなく、入居者の言動や行動、それに対する職員の対応、ケアへの反応や気づきを記録している。担当者は、記録から必要な情報を抜きだし、カンファレンス時に報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや買い物など希望に即した外出支援を行っている。オレンジカフェなどのサロンに参加するなど柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや地域サロンなど入居者が興味・関心があれば出かけ、楽しめる機会を作っている。また、施設の祭りも地域の方に案内を送り、参加してもらうことで交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症について理解のある主治医が毎週往診に来て下さる。入居者に急な状態の変化があった時は、家族へ丁寧な説明をして下さり、専門性の高い治療が必要なときは、主治医が紹介状を書いてくれ、適切な医療を受けられるように支援してくだっている。	主治医の往診が月2回ある。夜間や緊急時の対応も可能である。他科の受診については家族・事業所で対応している。必要に応じて、訪問歯科の往診も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度は、かかりつけ医に入居者の状態をFAXで伝えている。また、入居者が急に体調不良になった場合は、すぐにかかりつけ医に連絡し、指示を受けている。夜間や休日は、直接主治医の携帯に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず職員が病院へ一緒に付いて行き、入居者について情報を伝えている。後日、介護添書を持って行き、日々の様子やADLなどの細かい情報を伝えている。入院中は何度もお見舞いに行くなど、入居者の状態を把握するようにしている。病院側と家族、職員とで話し合いを行い、早期退院に向け関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態が悪化した場合、主治医と家族、職員とでムンテラを行い、家族の希望を確認している。GHで看取りを希望される場合は、家族に事業所でできる範囲のことをしっかり伝えるようにしている。	契約時に事業所で出きる事・出きない事の説明を行い、家族の意向を書類に残している。また重度化した場合には、医師が家族に説明を行い、家族の意向を確認しながら、柔軟な対応で支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で救急対応について講義を受けている。看護師による雑学に加え、現場を想定した実施訓練もしている。緊急時のマニュアルを作り、職員がいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間想定で火災に対する訓練を実施している。地域の方も参加し、通報・初期消火・避難の訓練を実施している。	昼夜を想定して、年2回の消火避難訓練を行っている。訓練時には地域住民の参加もあり、水消火器を消防署から借り受け、訓練を行った。水害時には、事業所の3階に避難を想定している。水の備蓄はできている。	年に1度は、消防署の協力を得ての訓練を実施されること、また食糧の備蓄をされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として一人一人を尊重した言葉使いや接し方をしている。特にトイレや入浴時はプライバシーに配慮した対応を心がけている。	利用者は基本、名字で呼んでいるが、生活歴や家族の意向を反映して「会長さん」と呼ぶ利用者もいる。車いすの利用者がトイレのドアを開けたまま使用している時には、移動式のカーテンを使用するなど、プライバシーに配慮をしている。家族ノートを利用し、家族以外の面会者にとって良いこと悪いことを職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも選択肢を設けたり、本人がどうか、尋ねるようにしている。家事活動やレクリエーションの参加も、本人の意思を尊重し、無理強いはいないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを尊重し思いのまま過ごして頂けるように配慮している。また、新聞の広告を見て買い物や外出の予定を一緒に立てるなど、入居者の希望に添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面所で身だしなみを整えてもらっている。立位が難しい方には、椅子を用意して安全にも配慮している。個人で化粧道具を持っている方もおられるが、無い方はチームでも化粧道具を用意しており、いつでも使えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの一連の流れ、メニュー決めから食材切り、味付け、盛り付けなど入居者に聞きながら、楽しくやっている。食器洗いや食器拭きは入居者が率先してやって下さっている。職員は必ずお礼を言うようにしている。	食材を見て利用者と相談をしながら、3食とも手作りをしている。利用者の得意なこと・できることを把握し、意向を確認しながら、調理から後片付けまでの一連の流れを、共同作業で行っている。家族や地域の方からの差し入れもあり、季節に応じたメニューとなっている。誕生日には、利用者の好物の提供もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状態によって、食事形態を考えたり、栄養状態をよくするため、大豆の煮豆や卵など、タンパク質が多いものをより多く提供している。水分を中々摂られない方には、容器や嗜好品、一回の量を少なくして細かく提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく本人に歯磨きをしてもらっているが、自力で出来ない方は、職員が介助してやっている。夕食後は全入居者に磨き残しがないか確認するようにしている。歯科往診があれば、各入居者ごとに口腔ケアの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らすため、排泄チェック表付け、排泄パターンを調べてトイレ誘導をしている。見当識障害がある入居者には、居室からトイレまでの動線に目印をつけ、迷わずトイレへ行けるようにしている。	排泄チェック表を参考に、利用者に応じたトイレ誘導をしている。日中は全員トイレでの排泄を行い、夜間は睡眠を優先し、個人に応じて対応をしている。足上げ運動・骨盤底筋運動・便秘体操などの運動を取り入れ、トイレでの排泄が継続できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チームで便秘について勉強会を行い、便秘の原因、運動療法や食物療法などの予防法をしらべ、取り組んでいる。起床時に白湯を飲んだり、腸の蠕動運動を促す体操や腹部マッサージを行い、排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には本人の意思を確認し、毎日入浴したい人は、入ってもらっている。入居者の習慣や愛用のシャンプーなどがあるば、個々にそった支援ができるようにしている。	午後から夕方までの時間で、1～2日毎に入浴している。希望者は毎日、夕食後の入浴も可能である。2人介助の利用者も含め、全員が浴槽に入っている。また月の第1週には、1階にある大浴場で温泉気分を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れたり、眠たい時は入居者自ら居室へ戻られ休まれているが、転倒のリスクが高い人や見守りが必要な方は、和室やソファを利用して休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の目的・副作用の情報は、Drノートで保管し、いつでも確認できるようにしている。服薬後、体調に問題があれば、すぐに主治医に連絡し指示を受けれるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の楽しみごとを普段の会話などから探り、いきつけのお店に食事へ行ったり、天満屋へ服を買いにいったりと気分転換を図っている。元運転手だった人とはよくドライブに出かけてたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が日課だった入居者の方は、本人の希望に沿うように出かけている。近所の方もお知り合いになりよく会話もしている。地域行事などには、家族と一緒に参加するなど協力してもらっている。	日常的に散歩、スーパーへの買い物、外食などに出かけている。また、オレンジカフェへの参加や地元の神社への初詣など外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、入居者が自由に使えるお金がある事で安心される事を理解しており、個別の買い物や外出行事で出かけるときは、本人にお財布を渡し、自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話したいと訴えがあれば、自由にかけられるようにしている。自力で難しい方は、職員が代わりにかけてあげている。正月には、年賀状を送りたいと訴えがあれば、はがきを購入し送るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今の季節を感じれるように玄関や廊下、居間には季節の花や飾りをするようにしている。テーブルにも花を飾るなど居心地良く過ごせるように工夫している。	壁には、利用者の作品の絵手紙・習字・カーブ新聞・写真などが飾られている。リビングにはエアロバイクが置かれ、天候の悪い日の運動に役立っている。ソファの配置も利用者のくつろげる場となると共にレクレーションの場になるように配慮もされている。季節の花が飾られ、適度な温度や明るさの空間は居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、数か所にソファやイス、テーブルを置き、思い思いに過ごせるようにしている。また、居間以外に和室にもテレビを用意し、他入居者と違うテレビが見たい時などは、自由に見えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れたタンスや馴染みの道具を持ってきてもらい、本人が落ち着きやすい環境を整えるようにしている。また、家族からの手紙や家族の写真などを貼り、寂しくないようにしている。	お気に入りの歌手の写真・応援する野球チームの写真やゲーム予定表・孫やひ孫の成長写真など、思い思いに飾られた部屋に、利用者の個性が感じられる。使い慣れたタンスや椅子・時計やぬいぐるみなど馴染みの物が持ち込まれ、生活感が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで入居者が安全に歩けるようにし、廊下は入居者の高さに合わせた手すりが付いている。トイレの扉の色を変えたり、入浴場は温泉マークで暖簾をかけたりして、入居者がわかりやすいように工夫している。		